

別 紙

第62回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第 2 分科会	演題番号	202
題 名	浜松市における妊産婦のメンタルヘルスの実態及び伴走型支援についての検討		
所 属	浜松市中央健康づくりセンター（東）、浜名健康づくりセンター		
氏 名	○高田日向子、栗田咲希、木内風花		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>本研究は、妊産婦のメンタルヘルスの実態を明らかにすることで、妊娠期からの伴走型支援について検討することを目的とし、妊婦訪問にて新たに要支援と判断された者のハイリスク因子別にエジンバラ産後うつ病自己評価票（以下 EPDS）との関連性について分析した。また、要支援者に対する妊娠期からの支援状況や妊娠期に問題なしと判断されていた者が EPDS 高値となった要因について、記述的に抽出した。</p> <p>その結果、妊娠期にうつ傾向のある者やメンタル既往該当者では、産後うつの傾向が高くなることが示された。これらの者に対しては、妊娠期から訪問等を通じて介入していたが、多職種多機関と連携する等、支援体制を構築する必要があると考えられた。また、育児知識やサポート不足等により、ハイリスク因子のない者でも EPDS 高値となるケースがあることが明らかとなった。以上のことから、支援者による妊娠期からの適切なスクリーニングと早期介入の必要性及び家族を含めて育児のイメージを具体的に持てるような働きかけの重要性が示唆された。</p>		